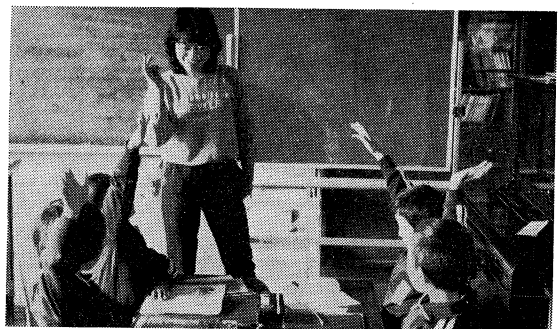


図1 5・6年学習活動と授業の記録(一部)

◀ 5 年 ▶		◀ 6 年 ▶						
段	指導上の留意点	学習活動	時	学習活動	指導上の留意点	段	◀ 反応 ▶	◀ 学習形態 ▶
つ	<ul style="list-style-type: none"> 多くの考えができるように操作活動を取り入れ、本時のめあてを焦点化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてをつかむ 問題文を読んで考える。 2.6ℓある牛乳を6dlはいるカップに分けていったら、何個のカップに分けられてどれだけあまるか 具体物を使って、いろいろな方法を立式する 本時の課題を設定する。 一課題一 小数÷小数であるまりはどう求めたらよいか。 	10	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習内容を問題ながら確かめる。 〈練習プリント〉 対応する頂点、辺 線対称な図形、点対称な図形の選別 点対称な図形の作図 	<ul style="list-style-type: none"> 協力的学習を取り入れるのでカセットテープを用意し、順序についての指示、確かめなどを与えながら学習を自主的にすすめさせる。 ※前時の内容が想起できたか 小わり(プリント) 本時の課題となる点対称な図形についてもふれておき意識を高めておく ※協力的学習の中で自分の考えをしっかりと持てたか。 	ふ	レディネス	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを達成するには、前時までの学習がしっかり定着していないと難しい。しかしレディネスの状態から前時までの学習内容の確認は、間接指導でも十分にすすめられる。この時は、 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ひとり学習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">グループ学習</div>
か	<ul style="list-style-type: none"> 単なる計算の方法ではなく小数÷小数の計算で、その裏づけと思考の過程が大切であることにも気づかせる。 ※与えられた問題文から自分で考える方向づけを持ったか 					か	<ul style="list-style-type: none"> 前時までのわかったことのノートからの実態 A「対応する頂点や辺の意味がわかった。」 B「対応する頂点や辺がわかった。」 C「同じ長さの辺や向いた点について、わかった。」 対応するという意味の理解が不十分であった。 D「対応する頂点や辺がわかった。」 E「対応する頂点や辺がわかった。」 	
む	(発表ノート)					め	5人のうち4人までが前時の学習をしっかりとつかんでいた。	へとすめる。



鈴木先生の授業風景



今野先生の授業風景